

自然観察 NOW

No. 13

野幌森林公園自然情報

発行：2016年8月4日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

涼を求めて

<どうして森の中は涼しいのでしょうか>

1, 木陰を作ってくれるからです

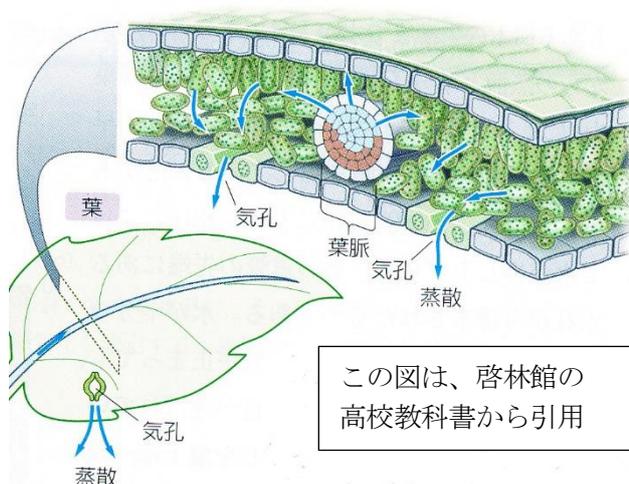
直射日光を避けて木陰で涼んだことがあるでしょう。盛夏の緑陰は、暑さを避けるオアシスです。

2, 葉に蒸散作用があるからです

葉の裏に気孔があります。気孔は、孔辺細胞の膨張収縮で開いたり閉じたりします。植物の呼吸、光合成に必要な二酸化炭素を取り入れる大事なところです。

気孔が開くと水が水蒸気となって大気中に出ていきます。これを蒸散作用といいます。

水が水蒸気になるには、水1ccあたり、539.8カロリーの気化熱が必要です。この熱は森の大気から供給されます。沢山の葉が蒸散作用をしますから、森の中の気温が下がります。だから、森の中は涼しいのです。



<夏、葉を落とすナニワズ>

オニシバリ、ナツボウズの異名で知られます



<4月18日撮影>



<8月5日撮影>



<11月6日撮影>

赤く輝く果実の写真は、数年前、本日のコースで撮影しました。よく見て下さい。葉がありません。「ナツボウズ」の名は、ここからきています。雌雄異株です。夏、雌株は赤い果実で見つかりますが、雄株を見つけるのは難しいです。

秋に葉とつぼみが出てきます。春、いの一に花を咲かせる準備をするのです。ナニワズは、落葉広葉樹の林床に適した生活をしています。

早春に花を咲かせる植物は、秋に目覚め準備を始めます。フクジュソウ・エゾエンゴサク・カタクリ、アズマイチゲ、キクザキイチゲなど、早春の花は、秋に発根、花芽を作り、冬を越します。

オニシバリの由来は、樹皮が強靱で手ではなかなか折れないため、鬼をも縛ることができるという意

味からです。樹皮繊維は強靱なので和紙の原料となります。陰樹なので庭木の下木として用いたりします。花、樹皮、果実にクマリン系配糖体ダフリンがあり有毒です。アイヌ民族はこの木から絞った液を矢毒に用いたといわれます。

<木肌が対照的なハクウンボクとアサダ>



ハクウンボク

葉が大きくハビロの名で親しまれている木。6月上旬、新しい枝の先に白く清楚な花を咲かせます。その様が青空にたなびく白雲のようであることから白雲木の名がつけました。



ハクウンボクの木肌は灰黒色、きめが細かくなると優しい感じがします。

花の美しさと白い花の清楚さが好まれ、茶室の花として用いられます。また、アイヌ民族は葉をタバコのように用いたといえます。

材は心材、辺材の区別がなく淡黄白色、ときには淡黄褐色で、肌目は緻密です。東北地方ではコケシや将棋の駒の材として利用されています。



アサダ

鉄の木と呼ばれるほど堅い木

アサダの木肌は荒々しい感じです。縦に不規則に割れ目があり、下からめくれ上がっているように見えます。アサダには、ミノカブリ、ハネカワという方言がありますが、この形状からきています。

アサダの材質は重硬できわめて緻密です。アメリカではアイアンウッドあるいはストーン



ウッド、中国では鉄木と呼ばれます。いずれも材が堅いことからの呼び名です。木材の色は、やや紅色を帯びた淡い褐色で、磨くと美しい光沢が出るので床板、家具器具材、靴の木型などに利用されています。

アサダの果穂は、野生のホップ(カラハナソウ)に似ています。サワシバも同じ形の果穂をつけます。

<参考とした本：「おもしろい木の話」北海道林業普及協会刊・高校教科書生物 I（啓林館刊）>

<観察会案内>

- ・9月4日（日） 恵庭公園観察会 10：00～12：30 集合：恵庭公園中央駐車場
- ・9月10日（土）秋の花でにぎわう森を歩こう 10：00～14：30

自然ふれあい交流館集合・解散

文責： 春日 順雄